

記者懇談会の記録

日時	令和5年6月29日（木）16:00～16:20
場所	岩見沢市役所3階 会議室3-5
記者数	4人

1 岩見沢市地球温暖化防止実行計画（事務事業編）の改訂について

（市長）

それでは、岩見沢市地球温暖化防止実行計画「事務事業編」ですが、これは地球温暖化対策推進法に基づく「地方公共団体実行計画の事務事業編」として位置付けられるもので、平成18年4月に策定し、令和3年10月に、国の温室効果ガス排出量の削減目標が引き上げられたこと、また、先般策定いたしました「区域施策編」におきまして、市の区域全体の温室効果ガス排出量の削減目標を定めたことから、このたび改訂をいたしました。

計画の概要ですが、本計画の対象とする施設は、市営住宅などの住居用施設を除く、市が管理する全施設・設備の事務、事業としています。ただし、消防などの一部事務組合については、除いています。

計画期間は、2023年度から2030年度までの8年間とし、温室効果ガスの削減目標は、国の政府実行計画や、区域施策編の削減目標を踏まえたうえで、これまでの40%から50%としました。

これまでの温室効果ガスの排出状況ですが、基準となるのが2013年度で、その年度と比較して、2021年度実績では、約42.9%の削減となっています。この要因は、2015年度から新たな廃棄物処理施設、いわみざわ環境クリーンプラザ「いわ☆ぴか」が稼働し、廃棄物の主な処分方法を埋め立てから焼却へ転換したことで、廃棄物の埋め立てによるメタン等の排出量の削減のほか、公共施設や街路灯のLED化に既に取り組んできていて、さらには職員の省エネ行動の積極的な実施により、電気の使用量による二酸化炭素の排出が削減されたことと分析をしています。

各施設の温室効果ガス排出実績ですが、概要版では上位10施設を記載しています。ここで、7番目のいわみざわ環境クリーンプラザにつきましては、廃棄物の焼却により発生する熱を利用した温水を使ってタービンを稼働することにより、電気を発生させていますので、施設で使用する電気量のうち約96%を自家消費しています。

また、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みですが、これまでの省エネ行動を職員一人一人が意識して継続的に実践するほか、省エネ効率の高い設備、再生可能エネルギーの導入などに積極的に取り組むこととしました。

1点目は施設の脱炭素化です。公共施設や街路灯などの照明のLED化、既存施設へ太陽光発電システムなどの再生可能エネルギー設備の導入などを推進します。

2点目は、設備・物品の更新です。設備の省エネ機器への転換や、公用車の次世代自動車の導入を検討します。

3点目は、施設の管理・運用です。設備の運用方法の見直しや適切なメンテナンスを行い、省エネルギー化に努めます。

4点目は、職員行動として、省エネ行動や節電などに努め、5点目は、その他として、省エネルギー、脱炭素化に関わる情報の収集に努めてまいりたいと考えています。

これらの施策を推進する体制と進行管理ですが、従来の推進体制に加えまして、施策に関連する担当課から選出した職員で構成するワーキンググループを設置することとしています。今後は、ワーキンググループで具体的な取組内容の検討や施策の推進を行ってまいりたいと考えています。

<質疑応答>

(北海道新聞)

今おっしゃられたワーキンググループというのは、いつごろ設置か、目途はあるのでしょうか。

(市長)

7月からの設置で予定しています。

(北海道新聞)

直近ですね。それはそれでいい話と言いますか、ぜひ取り上げたい話だと思うのですが、リリースの予定はあるのでしょうか。

(市長)

できたらリリースしましょうか。ワーキンググループはもう選考しているんですよ。

(市民環境部長)

担当で話しています。

(市長)

今、選考作業中です。固まりましたらリリースするようにいたします。

(北海道新聞)

わかりました。よろしくお願いします。

2 令和5年度 姉妹都市交流事業の実施内容について

(市長)

岩見沢市の姉妹都市は、アメリカ合衆国アイダホ州ポカテロ市です。

新型コロナウイルス感染症の影響により、ポカテロ市からの受け入れは4年ぶりとなります。また、昨年3年ぶりに実施しました、岩見沢市からポカテロ市への派遣については、本年度も実施いたします。

まず、ポカテロ市からの訪問団の受け入れについてですが、期間は7月4日から7月17日までの14日間、訪問団の人数は、高校生11名と団長1名の合計12名の皆さんが岩見沢に滞在されます。

7月5日に市役所を表敬訪問、ホストファミリーとの対面式を行い、18時からホテルサンブラ

場で、市主催の歓迎会を行う予定となっています。帰国する17日までの間、交流事業としまして、市内の学校訪問をはじめ、市内の観光スポット巡りや国際交流団体が主催する日本文化の体験、岩見沢和太鼓連絡協議会の協力による和太鼓体験、また、当市の学芸員による郷土科学館・旧国兼家住宅ツアーなどの行事に参加していただき、お別れ会は帰国の前日の16日に開催する予定となっています。

このポカテロ訪問団の滞在期間中を「姉妹都市交流週間」と位置付けまして、市役所正面玄関に横断幕を掲げ、また市のホームページや国際交流のフェイスブックなどでPRを行い、市民の皆さまが訪問団員との交流を深めるきっかけにしていきたいと考えています。

次に、岩見沢市からポカテロ市への派遣事業についてですが、期間は7月27日から8月11日までの16日間を予定しています。訪問団の構成は高校生が2名、中学生が4名、引率する団長は、高齢介護課の女性職員を予定しています。団長を加え、合計7名でポカテロ市を訪問します。団員の男女別では男性2名、女性4名となっています。

ポカテロ滞在中は、現地の姉妹都市協会が用意していただいた交流行事等に参加します。その後、サンフランシスコに移動して、市内見学のほか、現地在住の北海道出身者やその家族で構成しております、北カリフォルニアどさんこ会の皆さんと交流会で懇親を深め、8月11日に帰国する予定です。

これまでのアイダホ州ポカテロ市との交流の経緯については、次のページの資料に記載のとおりですので、ご覧いただきたいと思えます。

<質疑応答>

特になし

3 北海道そらちグルメフォンド 2023 の開催について

(市長)

北海道そらちグルメフォンド 2023 でございます。空知の雄大なロケーションと美味しいグルメを楽しむ、北海道最大級のサイクルイベントの一つであります本イベントは、今年、第10回目となります。

開催日は、8月20日、ロングとミドルの2種類のコースと、それぞれ未舗装路を走るグラベルコースを取り入れた4コースを設定しており、いわみざわ公園野外音楽堂「キタオン」を発着会場としまして、今年は、南空知の北回り、岩見沢市、三笠市、美唄市、月形町の4市町を巡っていただきます。

募集定員は、昨年はコロナ禍の影響もありましたので500名でしたが、それから増員し、全コース合わせて800名として、今月16日から既にエントリーの受付が始まっています。7月24日までの先着順となっておりますので、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

また、コース上のエイド、これは補給所ですが、エイドと、ゴール後に提供するグルメについ

ては、昨年は感染対策として個包装したものに限定しておりましたが、今年はその場で調理して提供するグルメも用意しています。

さらに、ゴール後のステージイベントを4年ぶりに開催します。今回は、大会ゲストのアテネオリンピック自転車競技代表であります、竹谷賢二さんのトークショー、そして、日高町ご出身のシンガーソングライター、こばしひなさんのミニライブなどを予定しています。

また、今年もフリーライドを並行して開催する予定です。期間中は、自由に南空知の対象スポットを巡っていただき、抽選で特産品等が当たりますので、こちらも是非、ご参加いただきたいと思っています。

< 質疑応答 >

特になし

3 その他記者から質問

< 質疑応答 >

(北海道新聞)

今回の議会の一般質問の中でも触れられていましたが、ラピダスの関係、岩見沢市さんとしては、どのように、一応、地域的には近い場所ではあるということで、東胆振の方ですと、企業誘致だったり住宅誘致だったりという動きが進んでいるところもありますが、現時点でラピダスのこの一連の流れに関してどういう対応をしようかというお考えはありますか。

(市長)

ラピダスについては、北海道全体の今後に向けてのやはり起爆剤になるんだろうというふうに認識をしまして。これから特に、例えば道央圏連絡道路の整備が進んで、岩見沢とのアクセスがさらに向上して、特に北海道バレー構想の中では、ラピダスは半導体製造ですが、石狩湾新港と苫小牧についてはポートセンターという位置づけで整備が進んでいこうと思います。それから札幌圏を中心としてはデータ関連企業の進出ということが見込めますし、また岩見沢市は「さっぽろ連携中枢都市圏」に加盟しておりますので、その中で情報連絡会というのも確か仮称ですが設置をして、お互いの圏域、さっぽろ連携中枢都市圏の12の自治体が入っていますが、その中でいろいろ情報共有しながら、岩見沢市としても期待をしていると言いますか、情報収集に当たりたいと思います。

それから岩見沢市はICT関係で、特にデータ活用型ということでいろいろとやっておりますが、半導体製造の人材というよりは、データを活用したデジタル人材と言いますか、そういった方面で、より広く連携を取れたらということで今情報収集に当たっているところです。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)